資料４

日本学術会議のより良い役割発揮に向けて（概要）

（令和３年４月２２日日本学術会議総会）

Ⅰ　日本学術会議のより良い役割発揮に向けた設置形態

〇ナショナル・アカデミーとして不可欠な要件：①学術的に国を代表する機関としての地位、②そのための公的資格の付与、③国家財政支出による安定した財政基盤、④活動面での政府からの独立、⑤会員選考における自主性・独立性

〇現行の日本学術会議の設置形態は上記５要件を満たし、国の機関としての形態は役割を果たすのにふさわしいもの。変更する積極的理由を見出すことは困難。

（国の機関以外の設置形態とする場合、学術的に国を代表する機関としての地位やその独立性、国との関係などを法律上明確にする規定が必要。自らの改革を進めつつ、検討を深める。）

Ⅱ　日本学術会議のより良い役割発揮に向けた取組

１　国際活動の強化

➢　日本の科学者の内外に対する代表機関である学術会議にとって極めて重要な活動

＜具体的な取組＞

・国際学術団体、各国アカデミーとの交流・連携の強化

・国際活動に参加する会員、国際学術団体役員やそれらの経験者等が交流・連携するプラットフォームの設置の検討

２　日本学術会議の意思の表出と科学的助言機能の強化

➢　提言などの意思の表出は科学的助言のための活動であり、学術会議の活動の中核

➢　独立した立場からより広い視野に立った社会課題の発見、中長期的に未来社会を展望した対応のあり方の提案が期待（審議会等との違い）

＜具体的な取組＞

・委員会・分科会間の横断的な交流・連携や合同審議・提言、分科会のあり方の見直し

・学協会、政策立案担当者、専門職団体、産業界、多方面の当事者等との意見交換・情報共有

３　対話を通じた情報発信力の強化

➢　一方向性のコミュニケーションのみならず、学協会との連携や社会の意見を聞き取る取組の強化、社会の受け止めや政策立案への貢献のフォローアップ

＜具体的な取組＞

・行政府、立法府、地方公共団体、産業界等との対話機能の強化

４　会員選考プロセスの透明性の向上

➢　学術会議が社会から信頼されるため、会員候補選考に関する説明責任を強化

＜具体的な取組＞

・期毎に求める人材像を明確にし、選考方針を公表。外部有識者からも意見聴取

・コ・オプテーションの原則を確保しながら、選考委員会の透明性向上に向けた取組（分野の異なる委員の参画、選考理由の公表など）

・学際的分野からの選考を強化するため、部を超えた枠の設定を拡大

５　事務局機能の強化

➢　より良い役割発揮のため、高度の専門性を備えた人材の確保が必要

＜具体的な取組＞

・デジタル・トランスフォーメーションに対応した業務改革、システム環境の整備

・課題設定や調査機能を担う総合企画・調査体制の整備

・専門性・知見を有する任期付職員や学術調査員等の採用、意思形成への補助的参画